

平成30年度 第2回 村山地域保健医療協議会（村山地域医療構想調整会議） 病床機能調整 村山ワーキング（東南村山）について

1. 会議概要

- 【日 時】 平成30年9月21日（金） 16:00～
【場 所】 村山保健所 2階 講堂
【内 容】 協議（1）地域医療構想の推進に関する進捗状況及びアンケート結果について
（2）天童市民病院及びみゆき会病院の医療体制の整備について

2. 議事概要

■地域医療構想の進め方等について

【報 告】

地域医療構想の進捗状況及びアンケート結果について事務局から報告を行った。

【主な意見】

- ・ 病床数の見直しの状況はどうか。
→ 県立中央病院、県立河北病院、北村山公立病院が見直し済みで、それ以外の病院は今後見直すこととしていると把握している。
- ・ 計画策定していない公立、公的病院以外の今後の見直しについて聞かせていただきたい。
《篠田総合病院》
急性期病床で稼働率は落ち気味。いずれ何らかの見直しが必要になると考えている。
《山形徳洲会病院》
休棟等 84 床は、一部稼働と一部許可取り下げを考えている。介護老人保健施設の開設、介護医療院も視野に入れての今後のあり方を検討していく。
《小白川至誠堂病院》
地域包括ケア病床は増やしていく見込み。
《みゆき会病院》
病床機能は見直し済み。急性期病棟 2 棟のうち 1 棟は地域包括ケア病床としている。
《吉岡病院》
現状維持で進めていく。
《矢吹病院》
600 人程度の患者を抱えており、1 割程度の病床が必要であることから見直しは困難。
《至誠堂総合病院》
新築移転の際に病床の転換、削減等の具体化を考えていたが、病床稼働率が低下しているため見直し方について検討中。

■天童市民病院及びみゆき会病院の医療体制の整備について

【報 告】

医療体制の整備について各病院から説明を行った。

【主な意見】

《天童市民病院》

- ・ 産婦人科医師の定年と分娩の需要についてどのように対応していくのか。
→山形大学医学部附属病院を中心にお産に関するネットワークを構築中と聞いている。
産婦人科医師の定年を踏まえて分娩を他の病院に割り振るなど対応し、併せて一般病床も見直し地域包括ケア病床にしていく。
- ・ 県立中央病院などから急性期で容体が落ち着いた患者の受け入れはあるのか。
→ある。回復期病床への移行は進めていくが、一定数の退院できない患者の受け入れ需要があり、慢性期の病床は残していく必要がある。

《みゆき会病院》

- ・ 地域包括ケア病床を運営するにあたり、他の病院、医師会、かかりつけ医など関係機関との連携などをどのように図っていくのか。
→山形市に近いことから、受け入れ困難な患者（高度急性期等）は山形大学医学部附属病院や山形市立病院済生館等に対応してもらっている。また、隣接する老人健康保健施設が在宅扱いとなる。空きがあれば後方支援ということで山形の急性期病床からの患者も受け入れている。

【助言者コメント】

天童市民病院及びみゆき会病院の医療体制の整備は地域のニーズ、山形県地域医療構想、診療報酬改定の趣旨等から鑑みて妥当と思われる。特に天童市民病院における訪問診療や介護との連携について、200床未満の病院の、平成30年度診療報酬改定における地域包括ケア病棟入院料、入院管理料算定上の診療実績として評価されるような在宅への取組みや介護との連携、在宅患者の容体悪化時の受け入れなどを担ってほしい。

厚生労働省は県に対して病床機能報告の医療機能選択に関して、地域の実情に応じた「定量的な基準」を導入するよう通知しており、今後地域医療構想の議論を進めていくにあたり整理していく必要がある。